

国内及び海外のボタン電池等及びボタン電池等使用製品に関する事故事例等

【国内】

- 東京都が把握した事故事例として、平成22年以降、ボタン電池等の誤飲若しくは誤飲の疑いで受診または緊急搬送された5歳以下の事例は157件であった。そのうち誤飲していた事例は少なくとも45件であり、入院した事例は23件だった。
- 誤飲または誤飲の疑いで受診した子供の年齢は1歳が83件と最も多く、入院事例は11件だった。また、4歳以上の入院事例も5件あった。
- 誤飲の原因となったボタン電池等の出所が明らかな事例は109件あり、その内訳は、玩具以外の製品50件、玩具35件、放置・保管中24件だった。
- 東京都が実施した危害、危険、ヒヤリ・ハット経験に関するアンケート調査では、0歳から6歳の子供と同居する保護者3,000人のうち、子供がボタン電池等を誤飲したことがある9件(0.3%)、誤飲を疑って受診した(誤飲なし)が2件(0.1%)、誤飲しそうになったが132件(4.4%)だった。

【海外】

- 欧米等主要国においても、誤飲による入院事例や死亡事例が把握されている。
- 米国では、政府の中毒センターに毎年3500件の傷害が報告されており、任意団体であるNCPCC(首都中毒センター)は、過去35件に及ぶ死亡報告を受けている。

用語の定義

- ・「**危害**」経験とは
誤飲した経験、及び誤飲を疑い受診した経験を指します。
- ・「**危険**」経験とは
口に入れていた、舐めていたなど誤飲しそうになった経験を指します。
- ・「**ヒヤリ・ハット**」経験とは
口に入れようとしていた、電池を手に持っていた、電池で遊んでいたなど、ヒヤリとしたりハットした経験を指します。

1. 国内におけるボタン電池等の誤飲等に関する事故事例等

東京都が把握した事故事例として、平成 22 年以降、ボタン電池等の誤飲若しくは誤飲の疑いで受診または緊急搬送された 5 歳以下の事例は 157 件であった。これらには誤飲の有無が不明の事例、受診の結果誤飲していなかった事例が含まれている。

このうち誤飲した事例は少なくとも 45 件であり、入院した事例は 23 件だった。

表 3-1 平成 22 年度以降把握事例件数

	受診・ 緊急搬送	左記のうち 誤飲した事例
東京消防庁救急搬送事例	80 (18)	18 件以上 (18)
国立成育医療研究センター受診事例	75 (3)	25 (3)
全国消費生活情報ネットワーク・システム (PIO-NET)	2 (2)	2 (2)
合計	157 (23)	45 件以上 (23)

注) カッコ内は入院の件数

(1) 「危害」のうち、入院または摘出施術を行った重篤な事故事例

東京都が把握したボタン電池等の誤飲に関する事故事例のうち、入院に至った事例は 23 件、摘出施術を行った事例は 10 件だった。これらの事例を以下に示す。

ア 入院事例

(ア) 東京消防庁

(平成 22 年 1 月から平成 26 年 12 月に、ボタン電池等の誤飲により東京消防庁管内で救急搬送された 5 歳以下の中等症以上の事故事例 18 件)

	発生年	子供の 年齢	事故 (危害) の内容	
1	平成 22 年	3 歳 男児	中等症	息子が電池を誤飲した
2	平成 22 年	4 歳 男児	中等症	自宅において息子が電池を誤飲した。
3	平成 22 年	1 歳 男児	中等症	居室内に置いてあった電池を子供が誤って飲み込んだ。
4	平成 24 年	2 歳 男児	中等症	自宅にて、ポータブル DVD 用リモコンの電池を飲み込んだ。
5	平成 25 年	2 歳 女児	中等症	自宅居室内でボタン電池を飲み込んだ。
6	平成 25 年	1 歳 男児	中等症	自宅で誤って体温計に入っていたボタン電池を誤飲した。
7	平成 25 年	1 歳 女児	中等症	親が目を離した際にキーホルダーで遊んでおり、中に入っていたボタン電池が 1 個無くなったため、誤飲したと考え救急相談センターに相談し、救急要請となった

8	平成 25 年	2 歳 女兒	中等症	床に落ちていたボタン電池を口に入れ飲み込んだ。
9	平成 26 年	1 歳 女兒	中等症	10 時頃におもちゃのボタン電池がないことに気がつき、家を探したがないため誤飲した疑いがある。
10	平成 26 年	1 歳 女兒	中等症	同上の事例でもう一人の子供が誤飲したもの
11	平成 26 年	2 歳 男児	中等症	外出先から帰宅した際、祖母と留守番をしていた息子の補聴器が外れ、ボタン電池を挿入するカバーが開いた状態でボタン電池が無くなっており、祖母から息子が何かを口に含んでいたと聞いた事から、ボタン電池を飲み込んだものと思い、母親が救急要請した。
12	平成 26 年	5 歳 女兒	中等症	自宅にて就寝中腹痛を訴えてきたため話を聞くとボタン電池を誤飲したとのこと。
13	平成 26 年	10 か月 女兒	中等症	おもちゃの電池ふたを口にくわえて遊んでいるのに気付く、中に入っていたと思われる電池が見当たらないことから、電池を誤飲したと思い、救急要請。
14	平成 26 年	4 歳 男児	中等症	自宅居室で兄弟と一緒に遊んでいた息子が、誤って口に入れられたゲーム機用のボタン電池を飲み込んでしまったと言うため救急要請した。
15	平成 26 年	5 歳 男児	中等症	遊んでいたらボタン電池を過って誤飲した。
16	平成 26 年	4 歳 女兒	中等症	娘がボタン電池を 1 つ飲んだと言ってきたため、救急相談センターに相談した結果、救急要請となった。 (ボタン形電池 (アルカリ))
17	平成 26 年	1 歳 女兒	中等症	ゲーム機のボタン電池を誤飲した可能性があり救急相談センターに連絡後、救急要請となった。
18	平成 26 年	1 歳 男児	重症	子供が遊んでいたタイマーのボタン電池がないことに気がつき、周囲を探してもみつからないため、子供が飲み込んだ可能性があるとのことで救急要請した。

注 1) 事故 (危害) の内容に記載されているボタン電池については、() で記載されているもの以外は、コイン形リチウム電池かボタン形電池か不明

注 2) 重症とは、生命の危機が強いと認められたもの

中等症とは、生命の危機はないが入院を要するもの

注 3) 1 歳以上は月齢不明。

情報提供) 東京消防庁

(イ) 国立成育医療研究センター

(平成 22 年 1 月から平成 27 年 1 月までに、ボタン電池等の誤飲により同センターを受診した 5 歳以下の入院事例 3 件)

	発生年	子供の 年齢	事故 (危害) の内容	
1	平成 24 年 11 月	1 歳 5 か月 男児	入院	児が自宅リビングの TV 台 (40cm) の上に置いてあった、電気のリモコンで遊んでいた。母は掃除機をかけていた。その後、リモコンの電池がないのに気づく。児が飲み込んだかもしれないが、瞬間は見えていない。捜してもなかった。ボタン電池 (直径 2cm 位)。型番など不明。レントゲン検査で、食道内にボタン電池を確認。透視下で摘出。食道第一狭窄部に停滞し抜去に難渋した。3 時間を要した。(コイン形リチウム電池)
2	平成 26 年 1 月	2 歳 2 か月 男児	入院	自宅リビングに児と二人の姉 (6 歳と 4 歳) がいた。母はキッチンで片付けをしていた。児の姉 2 人が「弟が何か飲んだよ、丸いものを食べてたよ！」と母に訴えた。母が見に行ってみると、児は泣いており、少し吐きそう

				<p>になって唾液を吐いた。床を見ると電池を入れている入物のふたが開いている状態で置いてあり、母は児が電池を飲み込んでしまったのではないかと思った。飲み込めるようなものは他に床にはなく、ケースのなかをよく確認してみると、ボタン電池が1つなくなっているように思えた。すぐに近医を受診し、食道内に異物があることが確認され、当院へ転送された。全身麻酔下、内視鏡的異物摘出。食道の腐食激しく、27日間入院となる。 (コイン形リチウム電池 CR2032)</p>
3	平成26年 10月	1歳 3か月 女児	入院	<p>10日ほど前に自宅室内で児は一人でおもちゃで遊んでいて、突然「ギャー」と激しく泣いた。その様子が尋常でない感じだったので、すぐ様子を見にいった。原因が見当たらず、わからなかった。母は児のそばに居なかったため、目撃無し。なぜ「何かを飲み込んだと思った」かは、聞いたことが無いような激しい泣き声だったことと、怪我もしていません、表面的に痛みを伴う様子がなかったため、何かあるとすればそれかと思った。泣き声は特にかすれたりもなく、喘鳴もなく、えずきもなく、気道異物を疑う様子は全くなかったため、誤飲したと思わなかった。その日の夕食から、飲み込み時に嘔気と喘鳴が出現。近医では喘息と診断され内服薬処方様子を見ていたが改善なく、本日、大学病院小児科を受診し、レントゲン検査の結果、気道異物が判明。当院へ搬送され手術で摘出。摘出した電池はリチウム電池。食道内に潰瘍形成されていたが穿孔なし。事故後、自宅にて確認してみると、不要なボタン電池15-16個入っていたボタン電池の袋(ビニール袋に入れてテープでぐるぐるに口を閉じてあり、さらにジッパー付きのビニール袋に入れてあった)は元あった高いところから持ち出されて開封されて破られ、中身が取り出された痕跡があった。それをしたのは3歳の兄が疑わしいが目撃はない。 (コイン形リチウム電池)</p>

情報提供) 国立成育医療研究センター

(ウ) 国民生活センター 全国消費生活情報ネットワーク・システム (PIO-NET) 事故情報
(平成22年1月以降受付から平成27年5月まで登録分の相談のうち、ボタン電池等の誤飲に関する5歳以下の入院事例2件)

	発生年	子供の年齢		事故(危害)の内容
1	平成25年 8月	1歳 2か月 男児	入院	<p>1歳2か月の子供がLEDライトで耳の奥まで照らす耳かきに内蔵されているコイン型リチウム電池を誤飲した。いつもは引き出しの中に収納している耳かきが放り出してあったので、子供が何を誤飲したかすぐに分かった。近くの大学病院に救急搬送したが取れず、さらに転送後小児医療専門病院で9時間かかって取りだした。放電の影響で気管と食道に穴が開いた。2か月入院し先週退院した。食事が取れず、いまだに固形物は受け付けない。子供がどのようにして誤飲したか見ていないので状況は判らず聞き出すことも出来ない。 (コイン型リチウム電池)</p>
2	平成26年	1歳 女児	入院	<p>夕飯前に娘が口を動かしているのを上の子が見つけた口の中を覗くと、懐中電灯のボタン電池だった。ボタン電池は3個あり探すけどどこにも見当たらず、慌てて医者に</p>

				行くと胃の中に2個あるのが分かった。すぐに胃洗浄し取り出し1日入院した。
--	--	--	--	--------------------------------------

注1) 事例2については月齢、電池の種類不明

出典) PIO-NET : PIO-NET に登録された相談事例から、東京都において独自に抽出した。

なお、事例1のLEDライト付き耳かきは、翌平成26年10月7日にリコールとなっている。

イ 国立成育医療研究センターの摘出事例（入院を除く）

（平成22年1月から平成27年1月に、ボタン電池等の誤飲により同センターを受診した入院はしていないが摘出施術をした5歳以下の事例10件）

	発生年	子供の年齢	事故（危害）の内容	
1	平成24年5月	1歳0か月男児	処置施行(即日治療完了)	12時ごろ、買ったばかりのキッチンタイマーが落ちて転がっていたがそのまま外出した。19時、帰宅後タイマーの蓋が開いていて、電池がないことに気づいた。探したけど見つからず。直径1cmのボタン電池。嘔吐や呼吸器症状なし。摘出後、電池には緑色さび様のものが片面付着していた。(ボタン形電池(アルカリ))
2	平成24年7月	11か月女児	処置施行(即日治療完了)	15時 冷蔵庫の上にボタン電池があったことを忘れ、児を冷蔵庫の高さまで持ち上げて遊んでいた。その後ボタン電池がなくなっていることに気づいた。 <u>飲んだところは目撃していないが、一緒に置いてあったキッチンタイマーのふたを口に入れていた。</u> 気道症状などはない。(ボタン形電池(アルカリ)、LR44)
3	平成24年8月	1歳5か月女児	処置施行(即日治療完了)	17時頃 時計の電池を交換しようと、テーブルに出しておいた。児は寝ていたので、ちょっと置くだけのつもりだった。電話に出ている間に、児は起きていた。確認したら電池が1個(直径5mm)なくなっていることに気がつく。誤飲疑いにて来院。(ボタン形電池(酸化銀))
4	平成24年10月	1歳9か月男児	処置施行(即日治療完了)	19時頃 母が目を離したすきに、テーブルの上にあったボタン電池がなくなった。テーブルは座卓(高さ50cm位)。たまたま電池を置いていた。児が飲み込んだ可能性があり来院。 <u>飲み込んだところは見えていない。</u> 咳込みや嘔吐なし。機嫌はよい。Xpにてボタン電池を胃内に確認。透視下にマグネットカテーテルを用いて、開口器を併用してボタン電池摘出。(ボタン形電池(アルカリ)、LR44)
5	平成24年12月	1歳2か月男児	要通院	22時頃 自宅リビングで。児が一人で光るステッキのおもちゃを振り回して遊んでいた。ボタン電池が(直径1cm)出たらしく、全部で3個あったはずだが2個不明。咳き込みあり。顔色不良、嘔吐なし。両親リビングにいたが。父はテレビを見ていて、母はリングを切っていて目撃していない。XPにて、ボタン電池2個確認。(ボタン形電池(アルカリ)、2個)
6	平成25年3月	0歳10か月男児	処置施行(即日治療完了)	12時頃、自宅にて一人遊び中。児の届く範囲に薬や体温計を入れてたジッパーつきの袋が少し開いていた。母がみたら口をモグモグさせていて、確認すると光るものがみえた。手で取ろうとしたら飲み込んだ。ボタン電池1cm程度。嘔吐なし。袋の中にボタン電池がそのまま入った(普段は入れない、たまたま)。袋のジッパーもたまたま開いていたと。(ボタン形電池(アルカリ))

7	平成25年 10月	1歳1か 月男児	要通院	23時ごろ。児の姉(5歳)が使用済みの電池が入っている小箱をリビングに持ってきていた。そのとき母は児の授乳中だった。母がウトウトして目が覚めたとき、電池が入っていた小箱が危ないので気になり、片付けたかどうか見たところ、箱の中のボタン電池が2つ足りないことに気づいた。ボタン電池は探しても見あたらず、児が飲み込んでしまったのではないかと心配になり当院受診した。レントゲン施行したところ、胃内にボタン電池3個が確認された。(ボタン形電池(アルカリ)、LR44)
8	平成25年 11月	0歳10か 月女児	要通院	16:50ごろ。児と母はリビングルームでテレビを見ていた。児はおもちゃの携帯電話を手に持って遊んでいた。母が児を見ると、口をもぐもぐさせていてボタン電池が入っていることに気づいた。あわてて口の中を探したが既に飲み込んでしまったようす。ボタン電池を飲み込んだのは確かだったため受診した。(ボタン形電池(アルカリ)、LR44)
9	平成26年 3月	1歳5か 月女児	要通院	15~18時の間の出来事。児は3歳姉と自宅のリビングで遊んでいた。18:20ごろ、母がリビングを片付けていたところ、おもちゃの中のボタン電池1個と部品が床に落ちていた。中を確認すると、3個入っていたはずのボタン電池が2個見当たらず、母は誤飲を疑って受診となった。透視下、マグネットチューブで1個摘出。もう一つは小腸よりさらに進んでいたため自然排泄を待つことに。(ボタン形電池(アルカリ)、LR44)
10	平成26年 7月	1歳4か 月女児	処置施行(即日治療完了)	20:40ごろ。母はキッチンでカウンター越しに子どもたちのようすを見ていた。ダイニングテーブルの上に3歳の兄がキッチンタイマーと取り出したボタン電池を並べて置いていた。母からは、カウンターでテーブルの上がちょうど死角になり見えていなかった、と。母がテーブルに行くと、ボタン電池が無くなっており兄もいっしょに探したが見つからない。誤飲を疑って近医受診。レントゲンで胃内に確認され、当院受診。マグネットカテーテルで摘出。(ボタン形電池(アルカリ)、LR1130)

情報提供) 国立成育医療研究センター

(2) 誤飲事故の発生状況

ア 年齢別発生件数

誤飲に関する事故事例 157 件の年齢別発生件数を表 3-2 に示す。1 歳児の件数が 83 件と最も多く、入院事例は 11 件だった。また、4 歳、5 歳でも入院事例が合計 5 件あった。

表 3-2 誤飲に関する事故事例の年齢別発生件数

誤飲の有無	東京消防庁		国立成育医療研究センター		PIO- NET	小計			合計
	不明	あり	なし	あり		不明	なし	あり	
0 歳	16	1(1)	14	5	0	16	14	6(1)	36(1)
1 歳	29	7(7)	29	16(2)	2(2)	29	29	25(11)	83(11)
2 歳	10	4(4)	6	2(1)	0	10	6	6(5)	22(5)
3 歳	5	1(1)	1	1	0	5	1	2(1)	8(1)
4 歳	2	3(3)	0	1	0	2	0	4(3)	6(3)
5 歳	0	2(2)	0	0	0	0	0	2(2)	2(2)
合計	62	18(18)	50	25(3)	2(2)	62	50	45(23)	157(23)

注 1) カッコ内は入院の件数

注 2) 東京消防庁のデータは、入院事例 18 件については誤飲ありの事例とした。それ以外の 62 件は誤飲の有無は不明

イ 誤飲の原因となった電池の出所

誤飲に関する事故事例 157 件のうち電池の出所が明らかな事例は 109 件だった。出所の内訳を表 3-3 に示す。電池の出所は、玩具以外のボタン電池等使用製品 50 件、玩具 35 件、放置・保管 24 件だった。

表 3-3 誤飲に関する事故事例の電池の出所別発生件数

誤飲の有無	東京消防庁		国立成育医療研究センター		PIO- NET	小計			合計
	不明	あり	なし	あり		不明	なし	あり	
玩具以外のボタン電池等使用製品	9	5(5)	22	12(1)	2(2)	9	22	19(8)	50(8)
玩具	12	3(3)	12	8	0	12	12	11(3)	35(3)
放置・保管	3	2(2)	14	5(2)	0	3	14	7(4)	24(4)
不明	38	8(8)	2	0	0	38	2	8(8)	48(8)
合計	62	18(18)	50	25(3)	2(2)	62	50	45(23)	157(23)

注 1) カッコ内は入院の件数

注 2) 東京消防庁のデータは、入院事例 18 件については誤飲ありの事例とした。それ以外の 62 件は誤飲の有無は不明

(ア) 玩具以外のボタン電池等使用製品の内訳

誤飲に関する事故事例の原因となった玩具以外のボタン電池等使用製品の内訳を表3-4に示す。

表3-4 誤飲に関する事故事例の玩具以外のボタン電池等使用製品別発生件数

誤飲の有無	東京消防庁		国立成育医療研究センター		PIO- NET	小計			合計
	不明	あり	なし	あり	あり	不明	なし	あり	
キッチンタイマー	4	1(1)	8	5	0	4	8	6(1)	18(1)
時計・腕時計	2	0	4	2	0	2	4	2	8
ライト・懐中電灯	1	0	4	0	1(1)	1	4	1(1)	6(1)
体温計	0	1(1)	2	1	0	0	2	2(1)	4(1)
補聴器（子供用含む）	1	1(1)	2	0	0	1	2	1(1)	4(1)
リモコン	0	1(1)	1	1(1)	0	0	1	2(2)	3(2)
耳かき	0	0	0	1	1(1)	0	0	2(1)	2(1)
ストップウォッチ	0	0	0	1	0	0	0	1	1
計算機	0	0	1	0	0	0	1	0	1
録音機	0	0	0	1	0	0	0	1	1
歩数計	1	0	0	0	0	1	0	0	1
キーホルダー	0	1(1)	0	0	0	0	0	1(1)	1(1)
合計	9	5(5)	22	12(1)	2(2)	9	22	19(8)	50(8)

注1) カッコ内は入院の件数

注2) 東京消防庁のデータは、入院事例については誤飲ありの事例とした。

注2) ライトは、玩具に分類されているものもある

(イ) 玩具の内訳

誤飲に関する事故事例の原因となった玩具の内訳を表3-5に示す。

表3-5 誤飲に関する事故事例の玩具別発生件数

誤飲の有無	東京消防庁		国立成育医療 研究センター		PIO -NET	小計			合計
	不明	あり	なし	あり	あり	不明	なし	あり	
光るおもちゃ	1	0	1	2	0	1	1	2	4
おもちゃの電灯・ペンライト	0	0	1	1	0	0	1	1	2
音の鳴る絵本	1	0	1	0	0	1	1	0	2
おもちゃの自動車のリモコン	0	0	0	1	0	0	0	1	1
キャラクターの人形	0	0	1	0	0	0	1	0	1
おもちゃの携帯電話	0	0	0	1	0	0	0	1	1
不明	10	3(3)	8	3	0	10	8	6(3)	24(3)
合計	12	3(3)	12	8	0	12	12	11(3)	35(3)

注1) カッコ内は入院の件数

注2) 東京消防庁のデータは、入院事例については誤飲ありの事例とした。

(ウ) 放置・保管内訳

誤飲に関する事故事例の原因となった放置・保管の件数の内訳を表3-6に示す。

表3-6 誤飲に関する事故事例の放置・保管の状況別発生件数

誤飲の有無	東京消防庁		国立成育医療研究センター		PIO- NET	小計			合計
	不明	あり	なし	あり	あり	不明	なし	あり	
廃棄のために保管されていたもの(缶・袋、ごみ箱等)	0	0	3	2(1)	0	0	3	2(1)	5(1)
交換時に一時的に放置したもの(テーブルの上、皿、財布等)	1	0	2	2	0	1	2	2	5
放置・保管(小物入れ、かご、工具入れ等)	0	0	4	0	0	0	4	0	4
購入時のパッケージに入っていたもの	2	0	3	0	0	2	3	0	5
床に落ちていた・床に落ちた	0	1(1)	2	0	0	0	2	1(1)	3(1)
購入後、缶に入れ替えてあったもの	0	0	0	1(1)	0	0	0	1(1)	1(1)
不明	0	1(1)	0	0	0	0	0	1(1)	1(1)
合計	3	2(2)	14	5(2)	0	3	14	7(4)	24(4)

注1) カッコ内は入院の件数

注2) 東京消防庁のデータは、入院事例については誤飲ありの事例とした。

(3) ヒヤリハットアンケートの分析

東京都が行った危害、危険、ヒヤリ・ハット経験のアンケート調査のうちボタン電池等に関する結果は以下の通りだった。

- ・調査対象者：都内、神奈川県、千葉県、埼玉県に居住する 0 歳から 6 歳（未就学児）の子供を持つ 20 歳以上の男女
- ・有効回答数 3,000 件
- ・アンケート実施期間：2015 年 1 月から 2 月まで

《設問》

- ・お子さんがボタン電池を誤飲したり、しそうになったことはありますか。（複数選択可）。
- ・ボタン電池を誤飲した時のお子さんの属性を教えてください。（1つ選択）
- ・ボタン電池を誤飲した時の状況を、記入例を参考に、できるだけ詳しく教えてください。
- ・ボタン電池を誤飲しそうになった時のお子さんの属性を教えてください。（1つ選択）
- ・ボタン電池を誤飲しそうになった時の状況を、記入例を参考に、できるだけ詳しく教えてください。

ア 集計結果

ボタン電池等に関する回答結果を表 3-7 に示す。また、危害、危険、ヒヤリ・ハットの「経験がある」回答の内訳を表 3-8 に示す。

表 3-7 ボタン電池に関するアンケート調査回答結果

誤飲『した』経験がある（受診なしも含む）	9 件
誤飲を疑って受診した経験がある（実際には誤飲していなかった）	2 件
誤飲『した』経験がなく、『しそうになった』経験だけある	132 件
誤飲『した』経験も、『しそうになった』経験もない	2,857 件
計	3,000 件

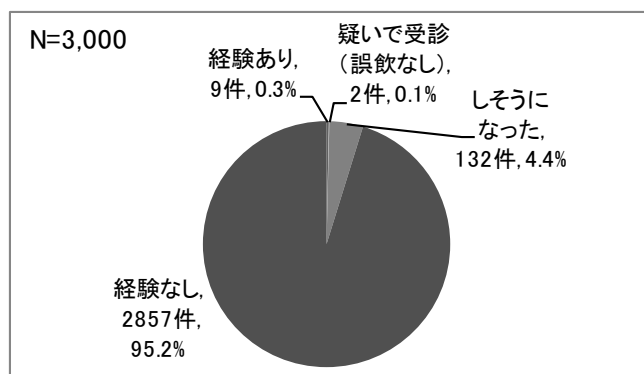


表3-8 経験が「ある」の回答の内訳(143件)

病院受診あり	【危害①】誤飲あり。入院あり。	0件
	【危害②-1】受診し誤飲していた(摘出・経過観察)	5件
	【危害②-2】受診したが誤飲していなかった。	2件
病院受診なし	【危害③-1】誤飲に気付いたが、すぐに受診しなかった。	1件
	【危害③-2】誤飲に気付かず、排泄により初めて気付いた。	2件
	【危険】誤飲しそうになった。口に入れていた。舐めていた。	69件
	【ヒヤリ・ハット①】口に入れようとしていた。	45件
	【ヒヤリ・ハット②】電池を手に持っていた。電池で遊んでいた。	18件
飲み込んだが詳細不明(危害②-1または③-1に該当)		1件
合 計		143件

イ 誤飲した時、しそうなった時の状況

各経験別に自由記述による回答の抜粋を以下に示す。

回答にある「ボタン電池」がコイン形リチウム電池かその他のボタン形電池かは不明。

危害②-1 来院し誤飲していた(摘出・経過観察)…5件

- ・ 子供が倒したかばんから偶然ボタン電池がこぼれ落ち、それを飲み込んだ形跡があった。小児科に連れて行き、ボタン電池であることから経過観察となり、最終的には便とともに排出された。(0歳 男児)
- ・ 飲み込んだようなので、焦って病院に行って取り出した。(0歳 男児)
- ・ 息子が1歳の時に取り換えて捨てるはずのボタン電池を棚の上に置いて洗濯物を干していたら、気づかないうちに台に乗り、ボタン電池をとって口に入れていた。20分くらいしてから夫が電池がないことに気づき、病院に連れて行き、レントゲンで確認したら、胃と腸の間くらいにあることがわかり、器具では取れないとのことで、下剤で出てくるのを待つことになった。翌日、うんちで出てきた。(1歳 男児)
- ・ キッチンで料理をしながら体温計の電池を交換していて、古い電池を棚の上においておいたら気づいたときにはなくなっていた。息子が歩行器を台にして手を伸ばし、口に入れているのを一瞬見た気がしたけど大きいボタン電池だったため飲んでしまうとは思わなくて気を抜いていた。今まで何かを口に入れてもすぐに出していたので。しばらくすると口の中からなくなっていて胸の辺りを気にしていたので、夜でもやっている病院に連れて行きレントゲンで胃にあるのがわかったので、取り出してもらった。(1歳 男児)
- ・ ガチャガチャの中の小さなおもちゃのボタン電池。用心でテープを留めていたが、お友達が開けてしまいました。目を離した隙に中から電池が出てしまい、飲み込んでしまったようです。しばらくして便をしたのでおむつを替えると真っ黒な便が……。急いで病院へ行きました。大事には至らず、電池も便と一緒に出ていたので無事でした。(3歳 女児)

危害②-2 受診したが実際には誤飲していなかった…2件

- ・ 私が洗面所で髪を乾かしていたら、リビングにいたはずの娘がボタン電池の空きパッケージを持って歩いてきて、満面の笑みを浮かべていました。すぐに口の中や喉の奥を確認しましたが電池は見あたらず、パッケージを自分で開けることはできないはずでしたがそれでも万が一を考えて ER 対応病院にタクシーで向かいました。レントゲン撮影していただき誤飲していないことを確認できました。その空きパッケージがどこにあったのか、どこから見つけ出したのかは謎のままです。直近で使っていないのでゴミ箱に入っていたわけでもありません。(1歳 女兒)
- ・ 体温計の電池を交換しようとして、新しい電池を探している間、ほんの何分か古い電池をテーブルの上でうっかりおいたまま子供から目を離してしまった。そして次に自分がテーブルを見た時にはその古い電池が無くなっていました。探したが見つからなくてもしかして誤飲してしまったのかと焦ったが子供に聞いてもまだ話ができる月齢でもなかったのでもとても不安で病院に連れて行ってレントゲンを撮ったら誤飲していなかった。家でよく探したらカーペットの下に入り込んでいて見つかった。(1歳 女兒)

危害③-1 誤飲に気付いたが、すぐに受診しなかった…1件

- ・ 目を離れたときに時計の電池を取り出し飲み込んでいた。背中を叩いても口から出なかったが、翌日うんちに一緒になって出てきた。(2歳 男児)

危害③-2 誤飲に気付かず、排泄によりはじめて気付いた …2件

- ・ 誤飲したのに気付かなかったが、後日排便の時に黒いうんちがでて中からボタン電池がでてきた。その後異常はなかった。(1歳 女兒)
- ・ いつの間にか飲み込んでいて、おむつ交換時に排泄物の中にあった。(2歳 男児)

危険 誤飲しそうになった。口に入れていた。舐めていた。…69件中12件抜粋

- ・ 電池を良く口に入れていたが、目をはなしたすきに飲んでしまった。すぐ気づいたので吐き出した。(2歳 男児)
- ・ 親が目を離れた隙に子供が小型懐中電灯を玩具にし、電池ケースのふたが外れて電池が外に出て、子供がそれを口に入れたところで親が気づいた。(0歳 男児)
- ・ ボタン電池で LED ライトがきらきら光る、プラスチックの棒を噛んだら 棒が割れてしまい、電池がむき出しになったところをくわえていた。(0歳 女兒)
- ・ 電池交換している時に手が届き口に入れてしまった。(0歳 女兒)
- ・ 1歳の息子が、目覚まし時計を床に投げつけて飛び出た電池をすかさず拾って口に入れた。その瞬間を見たので飲み込む前に取り出した。(1歳 男児)
- ・ 廃棄用にビニール袋に入れてあったボタン電池の袋を破って舐めていました。(1歳 男児)
- ・ 補聴器の電池を勝手に抜いていて口がモゴモゴしているのでこじ開けてみたら電池を

舐めていた。(1歳 男児)

- ・ 娘が1歳の時キッチンタイマーで遊んでいて、歯でふたを外して中の丸い電池を口の中に入れていた。(1歳 女児)
- ・ キッチンタイマーで遊んでいるうちにふたが外れたようで、中のボタン電池がなくなっていた。探す息子口の口の中にあった。(2歳 男児)
- ・ 子供が良く使用する電池式おもちゃの電池挿入部分のフタが気付いたら外れていた。よく見ると子供が口をもごもご動かしており、電池を口に入れたことを確認した。(2歳 男児)
- ・ 息子二歳時、キッチンタイマーを持ち歩き落とした際、ボタン電池がでてきて口に入れていた。(2歳 男児)
- ・ 時計が気がついたら、分解されていて、むき出しになった電池を口にしていた。(2歳 女児)
- ・ テレビのリモコンのボタン電池を勝手に開けて口の中でキャンディーのようになめていた。(3歳 男児)

ヒヤリ・ハット① 口に入れようとしていた。…45件中5件抜粋

- ・ 閉まっていた電池の箱のふたを何らかの弾みであけて口に入れようとしていた。(0歳 男児)
- ・ おもちゃを壊して電池を取り出し、口に含もうとした。(0歳 女児)
- ・ ボタン電池が入った電子機器を子供が床に落とし、電池がおちているのを見つけてなめようとしていた。(1歳 男児)
- ・ パッケージに入っていたボタン電池を勝手に開封して口に入れようとしたので注意した。(2歳 男児)
- ・ キッチンタイマーを投げて壊し、中からでたボタン電池をなめようとしていた。(3歳 男児)

ヒヤリ・ハット② 電池を手を持っていた。電池で遊んでいた。…18件中5件抜粋

- ・ 光るライトをもたせてしまったら、なげて分解し電池がでてきた。(0歳 男児)
- ・ おもちゃの電池部分のふたが簡単にあけられるタイプだったのでいつの間にか自分ではずしてしまっていた。電池をとろうとしていたのを発見できとりあげられたが危なかった。(1歳 男児)
- ・ キーホルダー型の懐中電灯をいつのまにか分解してボタン電池で遊んでいた。(1歳 女児)
- ・ ボタン電池の取り替えをしたとき、誤って机の上に置きっぱなしにしてしまい、子供が手にとって遊んでいた。(1歳 女児)
- ・ 目覚まし時計を手にしていて気づいたらふたをあけていた。(1歳 女児)

2. 海外におけるボタン電池等の誤飲に関する事故の発生状況

国際協力開発機構（OECD）が実施したボタン電池の安全性に関する国際啓発週間（2014年6月16日～20日）に際し取りまとめられた報告書において、参加国の傷害・死亡データは以下のとおり報告された。

国	データ
オーストラリア	オーストラリアでは、毎週およそ5人の子どもがボタン電池関連の傷害で救急診療部を訪れる。 1件の死亡事例も報告されている。
オーストリア	2005年から2011年の間、オーストリアの病院から、ボタン電池の誤飲による14件の入院事例が報告されている。
ブラジル	4件に及ぶボタン電池誤飲事故のマスコミ報道があった。
カナダ	カナダ病院傷害報告・防止プログラム(CHIRPP)によると、参画病院（小児科病院11箇所、一般病院6箇所）において、1年につき、ボタン電池関連で合計平均65名が救急診療部に訪れる。 これらの事故のうち、70%は誤飲事故、16%は耳や鼻に関連した事故だった。患者の約70%は、1歳から4歳であった。
クロアチア	ボタン電池誤飲による入院 <ul style="list-style-type: none"> • 2013年5件 男子2名(2歳),女子3名(1歳,2歳,7歳) • 2012年6件 男子3名(3歳),女子3名(1.5歳-3歳) • 2011年14件 男子5名(1歳-3歳(主に3歳男子) 自閉症の成人男性1名(25歳); 女子8名(1.5-4歳(平均2歳))
フランス	フランスの10病院の調査において、2005年から2012年の間、ボタン電池に関連する事故は248件あった。実際には600病院あることを考慮して、外挿法によって推計すると、毎年フランスの病院に1,240件ボタン電池に関わる事故が報告されていることになる。 これらの推定によると、フランスの人口規模を考慮した場合、フランスの大都市圏における事故率は15/100,000近くということになる。(なお、米国のNEISS全米電子傷害サーベイランスシステムでは推定10～20/100,000となっている。) 事故が最も起こりやすいのは、子どもが1歳から4歳の間である。 報告された事例の60%で、事故は子どもが遊んでいる時に起きていた。 23%の事例で、子どもたちは入院を余儀なくされた。(なお、子ども関連の国内のすべての事故の平均は6%である。)
韓国	最近4年間で、合計254件のボタン電池誤飲事例が、救急診療部から情報を収集しているCISS(消費者傷害監視システム)へ報告された。 254事例のうち、164事例は12カ月未満の子どもに関するものであった。
ラトビア	2014年4月に、大学病院(the Children's Clinical University Hospital of Latvia)から、ボタン電池を飲み込んだ後、1歳の子どもが死亡したとの報告があった。
ニュージーランド	国立中毒センター(The National Poisons Centre)は2011年から2013年の間に、175件のボタン電池に関連する電話を受けた。
イギリス	ボタン電池の誤飲により、2013年12月、13ヶ月の男子が死亡したとの報告があった。また、今年4月に1件の重症事例が報告された。
アメリカ合衆国	1990年から2009年の間に発生した電池誤飲の関連で、およそ50,000人が救急診療を訪れた。報告された事故のほとんどは、直径20mmかそれより大きい、3ボルトの電池に関係するものであった。 具体的には、ボタン電池による傷害が毎年3500件、アメリカ合衆国の中毒センター(the centres of poisoning control)に届出されている。 重症事例や死亡事例の数は増加している。 The US National Poison Capital Centreはボタン電池の誤飲により35件に及ぶ死亡報告を受けている。※

(出典) 消費者庁・独立行政法人国民生活センター ニュースリリース「乳幼児(特に1歳以下)のボタン電池の誤飲に注意」(平成26年6月18日)

※平成27年7月1日現在、死亡報告41件